

遠野地域におけるニホンジカ被害の現状と 地域と連携した被害防止対策の取組

岩手南部森林管理署遠野支署 業務グループ一般職員 茂木大佑

1. はじめに

近年、ニホンジカ（以下「シカ」という）の生息数の増加や生息域の拡大により、全国各地でシカによる農林業被害や自然植生への影響が深刻化している。

岩手県においては、シカは主に北上山地南部に位置する五葉山周辺に生息していたが、近年生息域が急激に拡大し、現在は岩手県のほぼ全域に生息していると見られる。これに伴い、五葉山周辺以外の地域でもシカによる農林業被害等が発生しており、シカ被害は拡大・増加傾向にある。

遠野市のシカによる農業被害は岩手県内でも特に著しく、その被害額は岩手県全体のシカによる農業被害額の約 50%を占めており、さらに年々増加している（図 1）。また、国有林においても樹皮はぎや幼齢木への食害等が確認されている（図 2）。

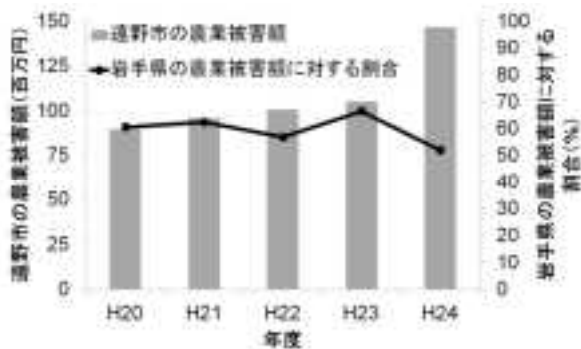


図 1 遠野市のシカによる農業被害額



図 2 食害を受けたヒノキ幼齢木
(○で囲まれた箇所が食害部分)

遠野市ではいたるところでシカが目撃されており、特に牧草地では数十頭もの大きな群れが確認され、市内全域に多くのシカが生息していると見られている（図 3）。また、遠野市北部に位置する早池峰山周辺でもシカが目撃情報が寄せられており、希少な高山植物への被害が懸念されている。東北森林管理局の調査では、早池峰山周辺には核心部の高標高域を除き広範囲にシカが生息していると推測され、被害防止対策の実施が急務であることが示されている。



図 3 牧草地のシカの群れ

このような状況の中、地域住民からシカの有害駆除を求める声が多く寄せられ、遠野市もその対策に力を入れていることから、当支署では、遠野市をはじめとした関係機関や地域住民と連携したシカ被害防止対策に取り組むこととした。

2. 取組の内容

(1) シカ捕獲支援としての林道除雪

シカによる農業被害等の軽減に向け、遠野市では平成 24 年 8 月に地元の猟友会員を中心として「遠野市鳥獣被害対策実施隊」（以下「実施隊」という）を設置し、捕獲体制の強化を図っている。

当支署では、遠野市が取り組む冬期のシカの捕獲を支援するため、平成 25 年 1 月から 3 月はじめにかけて遠野市北東部に位置する琴畑林道の除雪を試行的に実施した。この除雪を行うことによって車両での移動が可能となり、効率的にシカを発見・捕獲することができるため、より多くのシカの捕獲が期待される。実施に際しては、地元の猟友会や遠野市からのシカの日撃情報や除雪箇所についての要望、通行の安全性の確保等を踏まえて除雪する林道を決定した（図 4）。

琴畑林道の除雪距離は約 10km、標高は 520～790m で、①1 月 16～17 日、②2 月 13～15 日、③2 月 28 日～3 月 1 日の 3 回除雪を実施した。

その結果、平成 24 年度の琴畑林道周辺の除雪後の捕獲数は 26 頭であり、平成 23 年度と同じ期間の捕獲数と比べて約 5 倍となった。平成 22 年度と同じ期間の捕獲数は 41 頭で平成 24 年度より多くなっているが、これは事業実行のために除雪が行われ、琴畑林道を利用することができたためだと考えられる（表 1）。

琴畑林道では平成 25 年度も除雪を実施しており、効果の検証を引き続き行っていく予定である。



図 4 琴畑林道の除雪位置

表 1 琴畑林道周辺におけるシカ捕獲数

(単位：頭)

| | H22 年度 | H23 年度 | H24 年度 |
|------------------|--------|--------|--------|
| ～1/15 捕獲数 | 42 | 24 | 58 |
| 1/16～3/31 捕獲数 | 41* | 5 | 26* |
| 合計 | 83 | 29 | 84 |

*除雪実施

(2) 除雪林道周辺のシカ生息状況調査

シカをより効率的に発見・捕獲するためには、シカが多く生息している付近を除雪する必要があることから、冬期のシカの生息状況を把握することが重要である。そこで、除雪した林道周辺のシカの足跡調査とセンサーカメラによる撮影を行った。

①足跡調査

琴畑林道周辺のシカの足跡の位置を記録し、その位置における積雪深を測定した。調査は平成 25 年 2 月 12 日から 3 月 7 日にかけて 5 回実施した。

足跡調査の結果、起点から 5km の間で、積雪深が 30～80cm の箇所に足跡が確認された（図 5）。足跡があった箇所数と積雪深の関係（図 6）を見ると、70、80cm の箇所における足跡の数は少なく、80cm を超えると足跡は確認されなかった。このことから、積雪深が 70cm 以上の場所ではシカはほとんど出現しないと考えられる。

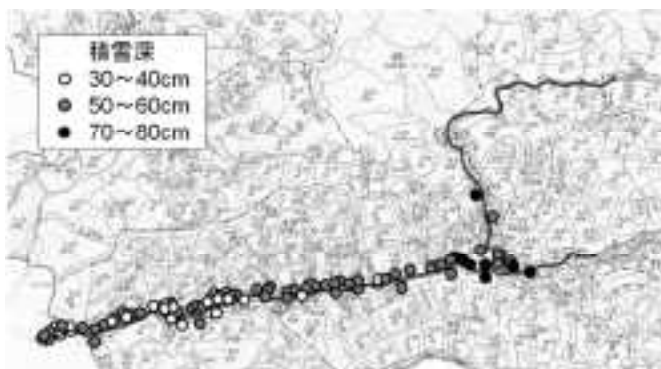


図 5 シカの足跡の位置と積雪深

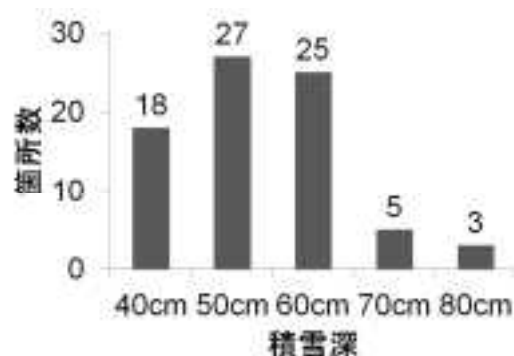


図 6 シカの足跡があった箇所数と積雪深の関係

②センサーカメラによる撮影

3 月中旬以降の融雪に伴い、足跡を観察することが困難になってきたため、センサーカメラを 6 台設置し、平成 25 年 3 月から 4 月まで定点撮影を行った（図 7）。

撮影の結果、3 月下旬から 4 月上旬にかけて No.1、2、3 で、4 月下旬には No.6 でシカが撮影された（No.4、5 では撮影されなかった）。積雪については No.1～4 では 3 月下旬、No.5、6 では 4 月下旬にほぼ全て解けており、シカが撮影された時期と重なっていることから、シカは雪解けとともに標高の高い場所へ移動しているものと考えられる（図 8）。



図 7 センサーカメラの位置



図 8 シカが撮影された箇所

③まとめ

以上の調査の結果、積雪深が 70cm 以上の場所にはシカはほとんど出現せず、雪解けとともに標高の高い場所へ移動していくことが分かった。このことから、冬期のシカの生息域は積雪深によって大きく左右され、標高が高く積雪が多いところにはほとんど生息していないと見られる。したがって、シカの効率的な捕獲のためには、この積雪深が重要な指標となるものとする。

(3) 遠野地方有害鳥獣駆除協議会への参画

遠野市は、市内の農林業関係者や猟友会等の関係機関で構成する「遠野地方有害鳥獣駆除協議会」（以下「協議会」という）を設置し、有害鳥獣駆除や防除対策の検討、実施等を行っている。当支署は、地域と連携したシカ被害防止対策を推進するため、平成 25 年度よりこの協議会に参画し、シカ関連の情報共有や意見交換等を行っている。

その中で、林道除雪の継続を望む声が多く寄せられたことから、平成 25 年度も実施することとし、実施に当たっては、狩猟者の要望や前年度の実施結果等を踏まえ、琴畑林道、金堀沢林道、長洞林道及び大麻部林道の 4 路線において除雪を行っている（図 9）。中でも琴畑林道については、前述した調査結果を踏まえて除雪距離を 10km から 4.3km に短縮して実施している。

なお、この除雪の情報は、遠野市の広報誌で市民へ周知するとともに、当支署のホームページでも作業状況を公開している。



図 9 平成 25 年度除雪位置

3. 今後の取組と課題

現在実施している林道除雪については、狩猟者から引き続き実施を望む声が多く、一定の効果があると考えられることから、今後も継続して実施していきたいと考えている。今後の実施に当たっては、シカ関連の調査資料やシカ目撃情報等の収集を継続し、シカの越冬地を把握した上で除雪路線や距離等を決定し、より効率的にシカを捕獲できるような林道除雪を行うことが重要である。

また、更なるシカ被害防止対策として、囲いわなの設置やシャープシューティングの実施等が挙げられるが、これらを実施するためには、関係機関や地域住民等との連携が不可欠である。さらに、シカ被害が市町村の境を越えて広範囲にわたっていることから、遠野市だけでなく、岩手県や他の市町村、隣接する森林管理署とも連携を深めることが必要と考えている。現在、当支署では岩手南部森林管理署とともに、花巻市の有害鳥獣被害防止対策協議会への参画に向けて協議を行っているところである。

今後、地域連携の環境づくりを進めながら、国有林として何ができるかという視点で、更なるシカ被害防止対策を地域と一体となって推進していきたいと考えている。